

ブラッセルへ引っ越して1年が経とうとしています。人生初めての首都での生活。「流石は」と思ったり「やっぱりなあ」と納得したり「何でやねん！」と憤慨したり毎日の毎日。しかし首都らしい魅力のある街です。以前建築物のことを書きましたが、今回は街で見かけた光景について書きます。

地下鉄に完全に「ヘビメタ系」のお兄さんがどかっと座っていました。次の駅でおばあさんが地下鉄に乗り込んできました。するとお兄さんはすっと席を立ち、おばあさんに席を譲ってあげたのです。おばあさんがお礼を言うと、極当然のことをやっただけだと言うような表情で立っていました私が自分の駅で降りるまでそのお兄さんは立ったままでした。

ある日のことです。バスを使って移動している時のことです。バギーを押した女性がバスに乗り込もうとしました。しかしバギーが重くて、どうしてもステップを上りきれません。すると普通の学生さんのようなお兄さんがバスを降り、その女性と一緒にバギーを持って乗り込んできました。困っている人がいるとすぐに援けようと心がけているのでしょうか。

二つの話はブラッセルの光景の一つです。私はこのような心の余裕が今の日本人に欠けつつあることに心が痛みます。確かにレジは遅いし、納期は守らないし、国鉄はすぐに遅れるし(そのため電車通勤、通学ができていない)、大雨が降ればすぐに信号が壊れるしと愚痴を続けるとそれだけで原稿1枚になりそうな国ですが、時間に追われるのではなく、時間の流れを自分のペースで作っているからこそ、心に余裕が生まれるのではと思います。Mons は地方都市なので何もかもがブラッセルよりもはるかにスローな生活でした。そこから電車通勤していた頃、朝のブラッセル中央駅から地下鉄への乗り換え通路を歩いていると、日本と同じように足早に歩いている人が多く、ブラッセルも日本のように時間に追われる生活リズムになっているのかと思いましたが、腰を落ち着けてブラッセルを見ていると、ブラッセル人もモンス人も持っている心は同じようなものだと感じる事が多々あります。

この夏も一日券を利用してトラム、バスを使って市内をウロウロしました。94番のトラムが全通したので、始点から終点まで当てもなく乗ろうということになり、トラム博物館前から乗り込みました。行き先が Louise となっていたので、そこで乗り換えかなと思い、変わっていく街の雰囲気を楽しんでいました。そして Louise に着き乗り換えのトラムの時刻を調べていると、Stib の職員が「ここから先は工事中で運休になっている」と教えてくれました。乗車前の情報収集不足です(この国では情報は貰うものではなく自分で探すものなんですね)。仕方がないから路線を変えて他を廻ろうということになったのですが、職員は「どこへ行きたいのか？」と訊ねてきます。私達は行き先を決めずにトラムの旅を楽しんでいると説明すると「それなら44番で Tervuren へ行ってみたら。とても景色が綺麗だよ。それに公園も博物館も魅力的だよ」と案内してくれました。相手の考えを知り、自分達の知っていることを伝えようとする気持ちが、とても嬉しかったです。話は代わって、皆さんはこの国の国鉄を利用したことがありますか？特に中央駅の窓口は長い列ができてることが多々あります。これは国鉄職員の仕事の段取りの悪さもありますが、中にはお客の身になって一番安い方法を調べている職員がいるからなのです。そしてお客さんがよく理解できるように説明しています。先日も窓口で Stib の切符を買っているお客さんがいました(買えるんですよ国鉄の窓口で)。お客さんは切符を買えたので中央駅から地下鉄に乗れると思い、何番線から地下鉄が出るのかと訊ねました。すると窓口の職員は地下鉄の駅は別の駅だからそちらで乗るように教えました。お客さんは中央駅が初めてだったようで、どっちに行けばいいのかと訊ねています。普通でしたら「その表示にそって行けばいい」ぐらいの回答ですが、その職員は立ち上がって大きく地下鉄乗り場のほうへ手を向けて説明を続けていました。お客相手とはいえ、とても親切な対応でした。また友人の一人はアントワープに行くのに逆方向の列車に乗ってしまったことがありました。車内検札で車掌さんが間違いを教えて、次の駅で降りて反対行きの列車に乗るようにと言われました。往復の差額を払おうとすると「次から間違えないでね」と言って差額を受取りませんでした。そして次の駅が近づくとその友人に降りるように指示し、駅では駅員に状況を説明してくれました。友人が驚いたのはその駅員が乗り換えホームまで連れて行き、戻る列車の車掌に状況を説明してくれたそうです。戻る列車の車掌も差額を請求しなかったそうです。ベルギーの国鉄は扉が閉まるときブザーがなります。このブザーがなると乗り込んではいけない規則になっています。車掌は1ヶ所だけ扉を開けたまま、他の扉が締まったことを確認して、プラットホームの信号を使って運転手に出発できる合図を送ります。車掌用の扉からの乗車はできない規則になっていますが、車掌によっては走ってくるお客を手招きし、そこから乗車させることもあります。これが遅れの原因の一つになっています。時間通り運行することももちろん最高のサービスですが、走ってくるお客の顔の前で扉を閉めることができない性分なんじゃないかな。心のゆとり。自分もこの部分はベルギーの人を見習って生きたいと思っています。